

五泉市国語部 活動報告

部長 奥山 順一(五泉市立村松小学校)

- 1 活動のねらい 新しい指導要領の趣旨を踏まえ、研修を深める。
- 2 活動内容 第1回…活動計画立案(4月20日)会場:五泉市立村松小学校
第2回…新学習指導要領に対応した教材研究(6月29日)会場:五泉市立村松小学校
第3回…授業研究指導案検討(9月7日)会場:五泉市立五泉東小学校
第4回…授業研究(9月28日)会場:五泉市立五泉南小学校
授業者:五泉市立五泉南小学校 教諭 岩崎 直哉 先生
単元名:「学級の仕事を教えてあげよう」 教材名:『どうぶつ園のじゅうい』(光村図書2年下)
指導者:五泉市教育委員会指導主事 中原 広司 様

3 活動の実際

①新学習指導要領に対応した教材研究

担当している学年ごとにグループを編成し、新教材についての教材研究を行った。各学年の主要教材を特に取り上げ、単元構成をどう工夫するか、言語活動をどのように工夫するか、学ばせるべき内容は何か、などを話し合った。

今年度からの新学習指導要領の本格実施を受け、それぞれの会員が、言語活動の工夫、教科書の活用の仕方(単元末にある手引きの活用など)、国語科での「習得」と「活用」のあり方などについて大変関心を持ちながら、意見交換するとともに、これまでの各自の実践を紹介し合ったり、日頃抱えている悩みについても交流したりすることができた。



②授業研究



新教材である『どうぶつ園のじゅうい』(光村図書2年下)での提案授業をもとにして、授業研究を行った。授業者は、中学年での「段落相互の関係」を理解したり、書くことに生かしたりする児童の姿を念頭に置き、低学年段階では指導をどう工夫できるかを考え、「意味のまとまりをとらえて、文章を読むことができる子どもの育成」を目指し授業に臨んだ。「1年生に学級の仕事を教えよう」という単元のゴールを設定し、本時では、『いつもしている仕事』と『その日の仕事』があることに気づき、『～ます』、『～ました』と文末を書き分けている筆者の意図を読み取ることができる。」をねらいであった。それぞれの形式段落の一文目の文末を空欄で提示し、「ます」「ました」のどちらが適切かを考えさせ、その考えの理由を児童に話し合わせることで、児童は、「ます」と「ました」を使い分けて表現する筆者の書き方の工夫について理解を深めることができた。

授業者は、時間の経過が分かる言葉へ着目させるクイズ、「ダウトをさがせ」による文末表現への着目など、低学年児童を意欲的に授業に参加させたり、筆者の工夫に気付かせたりするための工夫が随所に見られる、提案性のあふれる授業であった。

中原指導主事先生のご指導から

- 段落意識を持たせるために、低学年では何を学ばせるかという教師の問題意識の大切さ
- 単元を貫く言語活動の位置づけ
- 説明的文章で大切にしたいこと ①未知のもの、物事の別の見方を発見する。 ②筆者の書き方
- 表現の仕方に加え、内容の理解もしっかりとすることが必要

4 成果と課題

教材研究では、言語活動をどのように工夫して位置づけていくか熱心に話し合われた。また、日常の実践の悩みを交流するなどの情報交換もできたことから、会員からもとても有意義であったとの感想が多く聞かれた。授業研究では、児童が説明的文章の読みを通して、筆者の表現の仕方に気付かせ、その習得した内容を「書く」活動へと活用させることをねらいとした大変意欲的な実践を参観することができ、会員の大きな刺激となった。

今年度は、新学習指導要領の本格実施の年である。本部会で学んだことを活かしながら、日常の実践をしっかりと積み重ねていきたい。